

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	伝熱小委員会	主 査 名：猪岡 達夫 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：鉾井 修一
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	建築の基本性能である伝熱に関する研究および情報交換の場とする。 2005 年度：各 WG の活動報告や各 WG 委員の研究成果の発表を行った。 2006 年度：同上 2007 年度：各 WG の活動に加え、12 月に熱シンポジウムを開催した。 2008 年度：4 年間の活動をまとめ、次のステップに繋げる。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無： 有り 猪岡達夫(中部大学)、長井達夫(東京理科大学)、秋元孝之(芝浦工業大学)、永井久也(三重大学)、西岡真稔(大阪市立大学)、飯野秋成(新潟工科大学)、宇田川光弘(工学院大学)、川瀬貴晴(千葉大学)、菊田弘輝(北海道大学)、郡公子(宇都宮大学)、森太郎(釧路工業高等専門学校)	
設置 WG (WG 名：目的)	熱環境設計 WG：建築および住宅の熱環境設計の研究 熱環境性能 WG：建築および住宅の基本的な伝熱性能の研究 建築・都市環境 WG：建物周囲と都市環境との相互関係の研究	
2008 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： : http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	伝熱小委員会、および3つのWG、熱環境シミュレーション小委員会との合同開催の形をとっており、毎回、多方面の研究・調査の情報交換・意見交換を行えたことは非常に有意義であった。
委員会活動の問題点・課題	年4回のうち2回を地方開催(京都、名古屋)としたが、参加人数が少なくなる傾向にあった。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>4年間の総括として、 伝熱小委員会は2005年に設置され、4年間の活動を続けてきた。2008年度が最終年度にあたる。</p> <p>これまでの4年間の活動は、3つのWGと合同で開催してきた。更に、熱環境シミュレーション小委員会とも合同で開催してきた。(ただし、熱環境シミュレーション小委員会のWGは別開催)。</p> <p>建築の基本的な性能である熱環境性能WG、そのための応用研究である熱環境設計WG、更に、建築とその周辺環境である都市の相互作用を研究する建築・都市環境WGの3つのWGである。建築内部から建物周囲、住宅から大規模建築、都市環境までと幅が広い。的が絞りにくいという面もあるが、互いに関係しており、境界を引くのは難しい。むしろ色々な側面から研究内容を議論できることは刺激になり、メリットである。</p> <p>毎回の委員の研究を取り上げ、議論する形で進めてきたが、最新研究が簡単に生まれる訳ではなく、WGの主査の方には話題提供の調整に苦勞をかけた。</p> <p>この普段の活動内容をベースに、2005年には建築学会大会で2つのオーガナイズドセッションを担当し、2007年には熱シンポジウムを担当した。</p> <p>第37回熱シンポジウムは、2007年12月14日(金)・15日(土)の両日、名古屋大学野依記念学術交流館において実施した。参加者数は133名であり、大変盛況であった。</p> <p>テーマは『建築と都市に求める熱性能』とし、建築および住宅を対象として、建築部位から建物全体、建築と設備、都市環境との接点、評価シミュレーションまでを扱った。やや幅を拡げた感があったが、最初のセッションでは、実務の方々から普段余り聞くことのできない貴重な問題提起がなされ、大いに参考になった。また、最後の総合討論も非常に活発な議論が展開され、熱シンポジウムは成功裏に終わった。</p> <p>3年目に熱シンポジウムを担当することで、結果的に4年間に亘って主査を務めたが、やや長すぎた感がある。人心を一新する上で、多少の問題はあるにしろ、主査の任期は2年が適当である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。